追　悼

緒方健氏とヒメドロムシの思い出

2012 年 5 月下旬のある日，職場に行くと緒方健氏が亡くなったという話を聞いた．ちょうど 5 日前にご自宅に伺い，2 時間ほど話をしたところであった．数年間入退院を繰り返されており，最後にお会いした際にも体調は良くなさそうであったので，近い未来にこういうことになるだろうという覚悟はしていたものの，やはりそれは私にとって決して聞きたくない話であった．

緒方氏は私にとって学生時代からのヒメドロムシの師匠であり，様々なことを教えていただいた大恩ある方である．思い出は多々ありとても書きつくせるものではないが，ここに師匠を偲んで，一筆書き残したいと思う．

まずは緒方健氏について簡単に紹介したい．緒方氏は佐賀県にて 1958 年に生まれ，京都府立大学農学部を卒業後，九州大学農学部修士課程，ついで博士課程に進学され，その途中で福岡県保健環境研究所に研究職員として奉職された．従来昆虫採集を趣味としておられたようで，コメツキムシ, 中でもミズギワコメツキ類が好きだったと伺っている．しかし，本職の研究では主に水生昆虫類の分野で多くの成果を発表している．その知識は水生昆虫全般に及び，甲虫類はもちろんのこと，カゲロウ，カワゲラ，トビケラなど，河川性昆虫の分類については日本でも屈指の知識をお持ちであった．ただ，記載論文を積極的に執筆されることはなく，まさに知る人ぞ知る（でも業界の人はみんな知っている）的な研究者であったと思う．

私がそんな師匠と出会ったのは，たしか 2002 年頃であったと記憶している．大学入学後に水生甲虫採集，中でもゲンゴロウの採集に没頭し，2001 年頃までにはとりあえず既知種の半数ほどを採集することができ，採集の仕方も一通り覚えてそろそろ新しいステージへ旅立ちたいと思っていた頃である．そんな時にふと目についたのが同じ水生甲虫であるヒメドロムシであった．図鑑を見ても何が何やらわからず，たまに採れたものを見ても同定できる気が全くしなかった．しかし，これがわかるようになればきっと楽しい日々が待っているのではないだろうか，という気はしていた．

そんなある日，福岡県内にヒメドロムシに詳しい方がいらっしゃるという話を聞いた私は，すぐにアポイントメントをとり，いくばくかの採集したヒメドロムシを携えてその方の職場である福岡県保健環境研究所へと向かった．そのヒメドロムシに詳しいというウワサの方こそ緒方健氏であった．

出迎えてくれた緒方氏に挨拶をした後に，名前を知りたいのですが，と私は持参したヒメドロムシの標本を見せた．その瞬間，氏は「あっ！」と小さい声をあげてその標本を受け取り，私を残して実験室の方へ足早に消えていった．緒方氏の後を追って実験室に入ると，そこには実体顕微鏡を覗く氏の姿があった．全く私の存在を無視した一連の行動に若干の動揺を感じつつ，どうでしょうか，と尋ねる私に，緒方氏は「これはヤバイですよ ••••」と一言つぶやき，さらに「オリエントエルミス」と謎の呪文を唱えた．これが緒方氏との出会いのシーンである．

そう，私があまり何も考えずに採集してきたその小さなヒメドロムシはセマルヒメドロムシ *Orientelmis parvula* という種類であり，1961 年に新潟県から記載されて以来採集されていなかっ

図1．水路で水生生物を探す緒方健氏．

図2．水のしたたる岩盤でコマルシジミガムシを探す（奥は上手雄貴氏）．

た幻のヒメドロムシだったのである．もちろん九州からも初の分布確認となる．このセマルヒメドロムシの発見については故・佐藤正孝先生らと共著で公表された（Satô et al., 2005）．

さて，その後はヒメドロムシを教えてもらうということで，しばしば一緒にヒメドロムシ採集を行うこととなった．氏は親切ではあるのだが，初心者にも容赦はない．和名も知らない素人に，学名を織り交ぜつつ上級者向けの指導（？）を行う．そもそもヒメドロムシの和名がマルとかツヤとかヒメとかナガとかアシとか，特定のワードの組み合わせで構成されているため，とても覚えにくいのである．しかし，採った瞬間に網の上を這い回るヒメドロムシを見て，これは○○ですね，とつぶやき，そして私が採った種について，これは何ですか？と聞くとこれもまた速やかにこれは△△です，と答えが返ってくる．この展開に私は非常に感銘し，以後心の中でヒメドロ師匠と呼び，ついていくことを決意したのである．

師匠と力を注いだ調査として真っ先に挙げられるのが，福岡県内のヒメドロムシ相の解明である．2003 年以降，精力的に県内各地を回って分布調査を行った．その過程で，ハガマルヒメドロムシの県内からの再発見や，複数の未記載と思われる種の発見などの成果が上がった．それらの調査結果と，師匠の 1992 年以降の調査結果の集大成が 2006 年に発表した「福岡県のヒメドロムシ」である（緒方・中島，2006）．この報文では福岡県内から 25 種のヒメドロムシ科を記録した．九州で初となるまとまったファウナ報告であり，それに加えて未記載種と思われる種の紹介，流程分布，空間分布，地理分布，翅型多型など，師匠の 10 年以上にわたるヒメドロムシ調査研究によって得られた知識がふんだんに盛り込まれた内容となっている．

近年では水生昆虫のみならず，トビムシ類やダニ類などについても資料を収集し，とりまとめを行っておられた．これらもすべて未完成のまま残された．最後にお会いした時にも，今後調べるべきテーマのいくつかについてご教示いただいた．私の興味関心が狭いせいで，それは水生昆虫を中心としたものに限られたが，その場にトビムシ類やダニ類が好きな方がいたら，また別のテーマを語ったことだろう．それほど，師匠の興味の幅は広く，そして知識は一流であった．生物全般を確かな分類学的知識で見通せる稀有な才能をお持ちであったと思う．特に研究面においては心残りのことが多々あったに違いなく，この若さで亡くなられたのは本当に残念である．

師匠が生前もっとも力を注ぎ，その成果公表に努力されたと私が個人的に思っているのは，水生生物を使った環境指標と観察会で用いる資料の作成である．福岡県保健環境研究所のホームページからそのガイドブックが PDF 版でダウンロードできるので，興味のある方はぜひ見て欲しい（http://www.fihes.pref.fukuoka.jp/seibutsu/）．このガイドブックは生物多様性保全に関わる職員向けの研修で配布されており，福岡県の水環境保全の基礎となる水生生物のガイドブックになっている．驚くべきことにデザインから写真から文章から，すべてがほぼ師匠一人の力により作られている．これが完成した当時，「表紙になんとかハガマルヒメドロムシを入れることができましたよ」とニヤッと笑っていたのが思い出される．

誰よりも水環境とそこに棲む小さな生物たちを愛していた緒方健師匠．師匠の好んだきれいな水の流れる渓流や，水の滴る岩盤や，ほどよく朽ちた流木が，あちらの世界にもあるだろうか．不肖の弟子ではあったが，その教えていただいたことを無駄にせぬよう，日々努力していきたい．心よりご冥福をお祈りする．

参考文献（緒方氏の近年の著作のうち水生甲虫に関するもの）

Kamite, Y., T. Ogata & N. Hikida, 2007. Two new species of the genus *Laccobius* (Coleoptera, Hydrophilidae) from Japan. Elytra, 35(1): 34−41.

Kamite, Y., T. Ogata, & M. Satô, 2006. A new species of the genus *Zaitzeviaria* (Coleoptera, Elmidae) from Tsushima islands, Japan. The Japanese Journal of Systematic Entomology, 12(1): 149−153.

中島　淳・緒方　健，2004．福岡県・佐賀県におけるセスジダルマガムシ属 *Ochthebius* の採集記録．甲虫ニュース，（147）：13−14.

緒方　健，2000．プラストロン呼吸を行う水生昆虫に対する界面活性剤の影響．環境毒性学会誌，3：83−86.

緒方　健・中島　淳，2006．福岡県のヒメドロムシ．ホシザキグリーン財団研究報告，（9）：227−243.

Satô M., T. Ogata, J. Nakajima & Y. Kamite, 2005. Recent records of *Orientelmis parvula* (Coleoptera, Elmidae) in Japan, with a proposal for the conservation. Japanese Journal of Systematic Entomology, 11: 63−66.

（中島　淳　818-0135　太宰府市向佐野 39
福岡県保健環境研究所）